

「平成24年度国内放送番組編集の基本計画」のポイント

編集の基本方針→3ヵ年経営計画を体現する編成計画とする

- ・日本中に希望と元気を与え、復興を支援する報道、番組を放送する。
- ・放送やデジタルサービスを通して国民の命や安心を守るために貢献する。
- ・多様な関心に応え、幅広い世代に親しまれる番組、編成を心がける。
- ・激動する世界の政治や経済が日本の国民の暮らしに与える影響をわかりやすく伝える。
- ・以上の方針に基づいて、各波ごとの部門別の編成比率の基準に従って、バランスよく、ジャンルに偏りが無いように編成する。

編集の重点事項→9つの柱

- ・国民の生命と財産を守る正確で迅速な報道
正確・迅速な報道、防災・減災につながる情報を伝える。日本が抱える課題に向き合う。インターネットの機能と連関した新しいニュース番組を創設する。
- ・東日本大震災を検証し、復興を支援する番組
大震災、原発事故の教訓を検証する大型調査報道番組をつくり、災害映像、復興記録をアーカイブ化する。被災地の方々を励ます番組をつくる。
- ・幅広い視聴者層に親しまれる番組
親子いっしょに楽しめる番組や視聴者参加型クイズを放送。
- ・新たな時代に突入した衛星放送の更なる定着
BS1ではマルチ編成を積極的活用し、プレミアムではスペシャル感あふれる番組と女性や子どもにも受益感のある番組を意識して編成する。
- ・世界に通用する質の高い番組
世界に通用するレベルの高い番組や海外マーケットを意識した番組を開発。
- ・“放送局のちから”を深化させた地域放送の充実
地域社会が抱える問題と向き合う。地域情報の全国への発信で地域活性化に寄与する。地域ごとの安全安心情報をデジタルでサービスできるようにしていく。
- ・放送と通信の融合時代にふさわしい新たなサービスの展開
パソコン・モバイルへの節度ある計画的な動画展開をする。
- ・オリンピックロンドン大会およびパラリンピック放送の実施
選手、競技情報をインターネット、データ放送も使って多角的に伝える。
- ・人にやさしい放送・サービスの拡充
字幕放送、解説放送、手話など一層の拡充をはかる。

参考

数値データ（数値は23年度、24年度ともに計画値）

○総合テレビにおける報道部門の定時放送時間の比率が増加

総合テレビ全体＝週168時間00分（100％）に対し、報道部門は、80時間54分（48.2％）。（これは23年度に比べ1.6％の増加）

※娯楽部門は、33時間41分（20.0％）（23年度に比べ1.9％減）

○地域放送時間が総合テレビで増加

総合テレビで 指定ローカル枠が1日あたりで10分間増加。（23年度の2時間58分が3時間08分に）

※BSプレミアムに新設する「プレミアムドラマ（日・後10:00～11:00）」の中で、地域局制作のドラマを編成。（年間最低5本、さらに本数増加を検討中）

○字幕放送付与時間の増加

総合	週あたり	102時間39分（23年度に比べ4時間42分増）
Eテレ	週あたり	61時間19分（23年度に比べ11分増）
BS1	週あたり	5時間23分（23年度に比べ33分増）
BSプレミアム	週あたり	53時間41分（23年度に比べ4時間03分増）

※総合テレビにおいては、既に、収録番組のほぼ100％に字幕付与が完了している。今後は、生放送番組や総合波以外の番組についても順次字幕を拡大していく。また、大阪局、名古屋局に字幕装置を配備し、一部のニュースから地域放送でも字幕を付与していくことを目指す。

○解説放送の時間増加

総合	週あたり	13時間20分（23年度に比べ15分増）
Eテレ	週あたり	17時間17分（23年度に比べ1時間14分増）
BS1	週あたり	1時間30分（23年度に比べ増減なし）
BSプレミアム	週あたり	8時間30分（23年度に比べ2時間15分増）